

社団法人 埼玉私保連



広報

No.118

H25. 7. 31

発行



「気分はトムとハック」

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

(社)埼玉県私立保育園連盟 第39回定期総会

2013年5月21日(火)、埼玉会館7B会議室において埼玉県私立保育園連盟第39回定期総会が開催されました。開会の辞の後、森田会長挨拶そして来賓挨拶があり、議長・書記等の任命等が行われました。事務局長より加盟213ヶ園中、出席53園、委任状105園で過半数を超えたため総会成立が宣言され議案に入りました。

第1号議案 2012年度事業報告

森田会長より、保育業界のこの1年の総括がありました。「保育を守る関東ブロック連合会」では大きな意義と成果をあげることができたこと、「埼玉私保連緊急行動方針」を発表し、これを実現するため関係者・国・県当局に積極的に働きかけていくこと、政策要望では保育各団体・関係者が一致団結しなければならぬこと等が述べられました。また、市町村との連携強化・交渉の重要性、埼玉私保連の一般社団法人化にも言及され、更なる組織の活性化や団結についても述べられました。

続いて各部長より、2012年度の報告が行われました。

第2号議案 2012年度決算報告並びに監査報告に関する件

村山財務部長より決算書について詳細な説明がなされました。続いて、福島監事より埼玉私立保育園連盟2012年度決算に関し、会計帳簿等関係書類を監査の結果、相違ない旨、適正に処理されていたとの報告がなされました。拍手多数により第1号、第2号議案は一括承認されました。

第3号議案 役員改選に関する件

久保田事務局長より各役職の氏名が紹介され、質問・異議なく拍手多数により承認されました。

第4号議案 2013年度活動計画に関する件

森田会長より「子ども子育て新システム」にあらためて反対の意向を示していくこと、全国私立保育園連盟の公式見解にも発言し、埼玉私保連の意見を表明していくことが報告されました。次に各部長より各部新年度計画の説明が行われ、異議なく承認されました。

第5号議案 2013年度予算に関する件

第6号議案 一般社団法人移行に関する件

村山財務部長より、一括して説明がありました。第5号、第6号は関連議案のため一括審議されました。

質疑応答では新システムへの意見提案や人材確保の困難さなどの発言がなされ、その後拍手承認されました。最後に閉会の辞をもって定期総会は滞りなく終了しました。



研修 報告

議題：「保育園での危機管理」

～食物アレルギーを中心として～

日時：2013年7月4日（木）14：00～16：00

場所：浦和コミュニティーセンター

講師：六法法律事務所 弁護士 道本周作氏、
弁護士 鵜之沢大地氏

保育園で重大事故が起った場合、民事責任、刑事責任、行政責任に加え社会的責任を負う可能性がある。また、保育園が保護者に対して保育委託契約に基づき、保護者の代わりに園児の保護・養育を行い、保護者は保育料の支払義務を負う。保育園と保護者は「特別な社会的接触に入った当事者間」であり、①園児の対象年齢幅が広く、②判断能力が未熟で体力が弱いことから、単に園児を預ければよいというだけでなく最高裁のいう「法律関係の不随義務」「信義則上負う義務」として、園児の生活関係全般において、「園児の生命、身体、健康状態、安全に配慮し適切な保育を行う」安全配慮義務を負っていると解されている。一方、安全配慮義務の不履行がなければ、事故が起った場合でも保育園が普段からなすべき事をしていれば責任は発生しない。保育園が十分な安全管理体制を備えていた場合、保育園は園児の安全に対する注意義務を尽くしていたとして民事上の責任を問われないという。平時における事故防止体制として、安全点検表の作成、園外の安全確認、事故防止マニュアルの整備等があげられる。もし、事故が生じた場合、怪我の部位、程度に応じて、発生報告系統、搬送、応急措置、救急蘇生、顧問医や保護者への連絡、説明などの対応を予め定めておく。事故対応表としてまとめ、予め全保護者に示して了解を得ておくことよい。

食物アレルギー対策は、乳幼児の教育、監督を行っている保育園での重要課題である。アレルギーが発生した場合、そのアレルギー児のアレルギー反応の強さ、アレルギー物質の量などによって様々な症状が誘発され、特に全身症状によって生命の危機があるものをアナフィラキシーショックという。アレルギー反応は園児の

健康な生活を脅かすため、保育園が負う安全配慮義務は、食物アレルギーを持つ園児の安全を確保するという義務も含む。事故が起った場合でも、保育園がなすべきことをしていれば、責任は発生しない。保育園が十分な安全管理体制を備えていた場合、保育園は園児の安全に対する注意義務を尽していたとして責任は問われない。具体的には、児童福祉施設最低基準、保育所保育指針、食育基本法において、保育園における給食の重要性が記載されている。個別の保育委託契約のほか、下記のようなガイドラインが安全管理体制の基準となると考えられる。

給食では、除去食、代替食と解除食が基本的対応となる。それを行うには、①園児ごとに、アレルギーの有無、原因食物と症状（湿疹やアナフィラキシーショックなど）を把握したうえで、②保育園としての対応を決定し、実践する必要がある。アレルギー内容を把握するためには、必ず、医師の診断にもとづく生活管理指導表をもらう必要がある。

講習の最後に参加者から卵が除去食だが保護者から食べさせてほしいと要望があるがどのように対応したらよいか？との質問があり、道本先生から、基本的には、保育園での具体的取組みとヒヤリハットに基づく注意点での説明と同じ。保護者との献立表確認時の注意点として厚生労働省では、完全除去か完全解除を基本とする方が望ましい。子どものその日の体調もアレルギーに影響が出ることもあり、部分解除を行う場合には、①保護者から解除申請書をもらった上で、②料理に入れる卵の分量や焼き具合を話し合い、保護者の了解を得てから提供を行うよう注意する必要があるとの回答をいただきました。

施設訪問こんにちは

訪問先 (滑川町)

白い馬保育園

園長 岡久 博 先生

平成二十四年十一月、滑川町福田地区へ新築移転した「白い馬保育園」、武蔵丘陵の斜面を利用し階段式に建てられた園舎。全景は里山をまるごと保育園の庭にしてしまったよう……。森の保育園「そのものでした」。

園長先生は、徳島のご出身、故郷では国立療養所で重症心身障害児の児童指導員をされていたそうです。ご自身が子どもを授かった時に、保育に興味を持たれ埼玉県へ居を移し、保育園の子どもや障がいをもった子たち

の指導にあたりました。このような変遷を経て独自の保育感を確立し、平成十年四月より、滑川町羽尾地区に家庭保育室「白い馬保育園」をオープンしました。古民家を改装したアットホームな保育園として、保護者の方々より絶大な信頼を得て、子どもと共に、日々、学びの生活を送っていました。

平成二十二年六月、町と相談し耐震診断をした結果、Dランク(震度六以上で倒壊する可能性が高い)と診断されたのです。その後、滑川町や県との協議を進め、社会福祉法人を立ち上げ、認可園を設立する方向性が見えてきた頃、三・一一東日本大震災に遭遇したのです。この震災を踏まえ、新園舎は、鉄骨造り平屋建て準耐火構造とし、耐震・耐火に備えました。

また、子どもたちの生活する場所ということを中心に考え、風合いを大切に室内は木のぬくもりを生かし、周辺の景色にマッチした色合いの建物としました。

●園長先生の伴奏で：

6月、曇天の金曜日、訪問の日、駐車場から見上げると、ホール脇の入口より、園長先生が

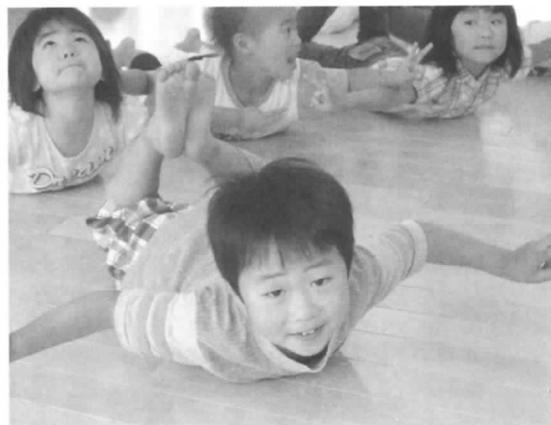
出迎えてくださいました。ホールへ入ると3・4・5歳児が集まっています。

挨拶が終わると、ピアノの前に園長先生が座り、ピアノを奏でリズムと歌が始まりました。どの子も裸足です。ピアノの音に合わせ、踊るように滑らかに体を動かしていきます。一人一人の心の動きや体調に配慮し、無理はせず、自分のペースでの参加です。「皆、大切だよ。」という先生方の思いが伝わってきました。

世界の多種多様な文化や物語・リズム表現・集団遊び等も取り入れているそうです。

●斜面に建つ、階段式の園舎

道路側から見上げると、学童室から階段を上るとホール、ホールから階段を上り四・五歳児の保育室、もう一つ階段を上り二・三歳児の保育室、職員休憩室・事務室・厨房をはさみ、一歳児・乳児の保育室がありました。階段脇には、すべり台があり、下から初級・中級・上級と名づけられ斜度が違ってきます。階段を上り切った保育室の南側には広く廊下スペースがあり、その先は、芝生となっており、平らな部分にはプールが設置されていました。汗をかいいた子はバシバシと気持ちよさそうに飛び込んでいました。その先の斜面全体に芝生が植えられ、開発前からあった数本の樹が木陰を作っていました。その斜面の高差は一〇メートルあるそうです。



す。ちょうど、学童室から保育室を望むと木陰を作っている樹の間に保育室が見えます。この斜面、芝生が定着すると、遊びの宝庫になりそうですね。

道路より、保育室へはスロープが作られ、園長先生が吟味した様々な苗木が植えられています。まだ、シルバークンさんが作業にあたっており、お池や築山ができるかと。一年後にもう一度訪ねてみたいになりました。

●雑木林は遊園地

園舎の北側は、雑木林が広がり、自然の恵みがいっぱいです。持ち主の方のご厚意で貸していただいています。下草はきれいに刈られ、落ち葉が天然のクッションとなっていました。

園舎を立てるために切り倒した樹や近所の竹林から切り出した竹を使い、園長先生をは





じめ、保育者や保護者が力を合わせて手作りしたアスレチック遊具が輝いていました。「どの樹を使おうか、登りやすい枝振りはどうだろう」と思案したアスレチックは、絶好の遊び場です。大きな子たちがスルスルと登っていく姿を見て、なんと二歳になったばかりの子も樹を刻んだだけの階段を登っていきましました。樹の上には、ツリーハウスと呼ばれる踊り場があり、空中鬼ごっこができるように竹が二本上下に組まれ回廊のようになっていました。運動面で鍛えられるのももちろんのこと、「見て・考えながらやってみる」頭も心もフル稼働させないと遊び込めないぞと感じました。

倒木や竹は、まだまだたくさんあり、このアスレチック、これからもどんどん進化してゆくようです。

その隣では、虫探しや竹に口

保育園の周囲には畑があり、園児の祖父が育てているヤギの小屋が見え、子ども達が触れ合えるようになっています。園長先生は、隣接した畑も借

「自分のことは自分でする」が基本。一歳児の保育室でも自分のお茶碗に汁物をよそったり、運んでいる姿がありました。大きな子たちの食堂は日の当たる廊下スペースです。皆で向かい合い食べる給食は格別です。豊かな食育で子どもの体と心は育ってゆくのです。

●豊かな食育、夢は無量大
地産地消をめざし、主食のお米は滑川在住の園児の祖父母が育てた安心安全なお米を五分搗きにしたご飯を採用、安全と栄養価に富んだ献立を考え、栄養士と調理員が厨房で調理を行っています。相談により、アレルギー対応も行い、おやつも手作りしています。

ロープを掛けただけのブランコやターザンロープに興じている子どもたちがいました。春夏秋冬、季節の移ろいの中で、自然物を遊び道具に変えてしまいう力を見出す、与えられるのではなく、自分で見つける喜びをふんだんに味わうことのできる子どもたちは幸せですね。これも素晴らしい環境と大人の見守り力があってこそ、発揮できるのだと感じました。



●みんなで子どもを育てる
信州、湯の丸山(2,180m)への登山遠足、はじめは子どもと職員とで行っていたそうですが、今は、保護者の希望により親子遠足になりました。他にも夏祭りや運動会・バザー等の行事、父母作業日や保護者同士の交流もあり、みんなで子どもを育てることを実践してきました。新しい土地、新しい園舎、そして、二〇〇m四方民家がないことが自慢の一つ、里山という地の利を生かした工夫をいっぱい詰め込んだ白い馬保育園は、

りており野菜の苗や種を蒔き、果樹も子ども達と共にいろいろと育てているようです。園長先生、ゆくゆくは自給自足が夢ですか。夢はどんどん広がります。

「ぼく、わたしならできる!」
やってみよう!
そう思える心を、仲間と共に過ごす中で育みます。
これは、保育園のしおりの表紙にあった言葉です。この言葉の実現のために、保育園に集うすべての方々が生活を楽しみ、子どもの育ちを見守っている素敵な保育園でした。
末筆になりますが、貴保育園の更なるご発展をお祈り申し上げます。また、お忙しい中、時間を割いていろいろとご案内いただき、ありがとうございましたことに感謝申し上げます。

●名前の由来は...
「どうして、白い馬保育園なのですか?」と尋ねたところ、「スーホの白い馬という絵本があり、そのお話が好きでした」と園長先生。
お話を聞き、想像して描いた子どもたちの素晴らしい絵を拝見しました。しっかりと線で見え、色とりどりの絵の具で画面いっぱい描かれた絵は迫力満点。そのまま、絵本の原画になりそうな勢いを感じました。

保護者や周囲の方々を巻き込み、「子どもが喜ぶ保育環境はみんなで作る」という信念の下、子育ての楽しさ・子育ての醍醐味を分かち合っているようでした。

「鹿児島研修会」

保育を守る全国連合会 代表者会議 5/18(土)17:00～

〈参加者〉

九州保育三団体連合会

佐藤会長

全国保育協議会

万田会長

全国私立保育園連盟

橘原淳信副会長

九州保育推進連盟連合会

永野会長

九州私立保育園連盟会長

塚本会長

・北海道 (1名)

・埼玉県 (3名)

・さいたま市 (1名)

・栃木県 (2名)

・広島市 (2名)

・山口県 (2名)

・福岡県 (2名)

・福岡市 (3名)

・北九州市 (1名)

・佐賀県 (2名)

・長崎県 (1名)

・熊本県 (4名)

・宮崎県 (3名)

・鹿児島県 (3名)

・大分県 (2名)

・沖縄県 (3名)

〈佐藤保育を守る〉

全国連合会会長

冒頭、横浜大会で九州がつくった新システム反対の冊子等について、厚労省より非難を受けた。会場にいた森田会長が「現場の事がわからないのか」との一声で、本当に助けられたことを今でも感謝しているとの挨拶がのべられた。

〈万田全国保育協議会会長〉

小川前保育協議会会長と同じスタンスでは行けない。3法を理解したうえで、これは譲れないということを書いていくつもりである。長く会長職を続けるつもりはなく2年間で燃え尽きる覚悟である。

・開所問題では8時間保育の22日開所の考え方から現行にあった11時間25日開所の単価にすべきである。

・公定価格の問題では、認定子ども園との格差を絶対につけてはいけない、統一単価とする。

・原価償却費を保育単価に加算するのではなく、あくまでも補助金とする。

・保育要領も保育指針の内容を認定子ども園でも採用している

・今回の制度については不満があるが、橘原先生が国の子育て会議のメンバーになった事は良かったと思っている。

・保育を守る全国連合会が「何を守り進んでいくのか」を決定することも必要と思う。

・制度の観点ではなく、高い保育の質の維持をどう考えるか議論することも必要であり、資格の問題についても、ほとんどの養成校で保育士資格、幼稚園教諭免許の取得が可能になっており、現職で働いている職員も両方を取得している傾向にある。

この事を踏まえ、今後の資格問題についての動向も見据えていくようにしたい。

〈橘原全私保連副会長〉

国の子育て会議のメンバーとして加わられた。尾辻先生の九州から一人加えるようにとの厚労省への働きかけもあり、九州の代表として参画している気持ちがある。

保育を守る全国連合会

2013年5月18日(土)19日(日) 鹿児島サンロイヤルホテル

埼玉私保連参加者:村山財務部長、久保田事務局長、多田事務局次長

国の子育て会議が2回開催されたが、子育て会議の下に検討部会が加わった、短い時間の中で、資料説明が大半を占め、25名の委員が意見を言える時間は一人2分程度である。その中で職員処遇の改善、保育の質の確保について意見を述べた。保育料については、所得税から住民税を基準にするように変更になったが、こちらについても検討が必要な事項である。

全国保育3団体で、バラバラな意見ではなく統一していく必要があることから声をかけ、各団体から2名から3名の代表を選出してもらい既に2回の保育三団体協議会が開催された。幹事団体はH25年度(全私保連)H26年度(全日保協)H27年度(全保協)と決まった。意見がある場合はFAXで送って欲しい。

〈永野福岡市日保協

(保育推進連盟) 会長〉

この度の新システム問題で全日保からは出入り禁止になっていないが、重要なのは、子ども子育て会議で、①保育単価で認定

こども園との差をつけさせないこと、②個人給付の施設整備が無くなり民改費の上乗せが検討されているようだが、施設整備費も民改費も補助金としてしっかり残させることが重要である。

〈重岡啓一熊本市保育園

連盟理事長〉

- ・ 今後の子ども子育て会議は25名、専門委員35名 部会2回の予定と聞いている。
- ・ 自治体は今後、ニーズ調査をし5カ年計画を作成することになっている。

この時のニーズ調査の取り方と質問の仕方が重要である。
・ 部会より認定子ども園との基準と移行の問題においても、保育園との格差をつけないことは重要な点と考える。
・ 橘原先生は全私保連からではなく、この九州からまた保育を守る連合会として意見を言う立場で子ども子育て会議に臨んで頂きたい。

〈その他意見〉

・ 7月4/5日・・・福岡プラ

ザで村山祐一先生を呼んでの学習会を行う。
・ 生命保険会社が保育園事業に参入できるようになった。
・ 規制改革会議を抑える必要がある。

〈まとめ〉

・ 法案が通ってしまっているが、まだ、何も決まっていない状態であることから、地元議員への働きかけや、議員会で、尾辻議員、麻生財務大臣に呼掛け、議員の勉強会を開催することになった。



◆◇ 編集後記 ◆◇

先日、赤目櫛の剪定をしていたところ、蜂に刺されてしまいました。五か所も…。運悪く、蜂の巣があることに気づかなかったのです。用心のため、蜂に刺されたときに針や毒を吸い出す、ポイズンリムーバーで処置をし、アンモニアを塗り、受診しました。アレルギー体質ではないのですが、念のため、アレルギー対応の薬を処方されました。薬の副作用で、強い睡魔に襲われたこと以外、変わりなく、幸いのこと刺されたところも腫れずに済みました。とにかく、子どもに何もなくてよかったです。と、胸をなでおろしました。皆さん、ご注意くださいね。(T・M)

毎日暑い日が続きます。先日、卒園生が出場する高校野球の応援に行ってきました。炎天下の中、必死にボールを追い、懸命なひたむきなプレーに感動しました。負けて涙を流す姿にもまたグッときました。掛買えのない青春の一ページですね。暑い夏が一瞬さわやかになりました。(S・K)

今年も保育室の前にグリーンカーテンを造りました。恒例のゴーヤに加え、ひょうたん、ヘチマ、キュウリを植え、現在全て大きく育っています。グリーンカーテンの機能としてはゴーヤが一番高く、満遍なく葉を茂らせていますが、他の植物は古い葉が枯れてしまい葉は上部にしか茂っていません。しかし、子どもたちには種々の実が面白いらしく、特にひょうたんは好評でした。(M・K)

事務局 (株)埼玉県私立保育園連盟 〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F
TEL 048(772)8623 FAX 048(772)8635

保育園および園児を さまざまなリスクからサポートします

全私保連
保険制度

園児総合保障
共済制度

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、
保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にどうぞ。



(社)全国私立保育園連盟指定・
東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育園会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806



印刷コンシェルジュ

コスモス rintz 株式会社



本社・工場 〒361-0077 埼玉県行田市忍2-9-15 TEL.048-554-7111(代) FAX.048-554-7628
支社 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-8-7 TEL.03-3947-5511(代) FAX.03-5395-7225

<http://www.cosmoprints.co.jp>